

プランクトンの季節的遷移から見た水質評価手法の検討 (調査解析 2)

琵琶湖水質の総合的な評価の基礎となる生物的な評価を行うため、プランクトンの発生状況を継続的に監視します。

また、これまで蓄積した観測データをもとに、季節ごとにプランクトンの出現種や数と水質および気象の変動との相互関係を明らかにするモデルを構築することで、富栄養や貧栄養など琵琶湖の水質がどのような移行過程にあるのか等詳細な評価を可能にします。

[キーワード：プランクトン, 季節遷移, 水質影響]

取組内容

[プランクトン情報の定期的な収集]

- 琵琶湖の現状を把握するため、継続的に行ってきたプランクトンの発生状況に関する情報を収集し、長期的な変動を監視します。

サブテーマ名「琵琶湖・瀬田川プランクトン等モニタリング調査」

[プランクトンの遷移と水質との関係把握]

- 種組成や生産量が季節の変化とともに一定のパターンを示すプランクトンの年間変動や、その変動要因となる、栄養塩濃度の増減や湖岸地形の変化、気象変動、外来種の侵入などについて整理し、記述モデルを構築します。
- 近年増加している植物プランクトンの粘質鞘が生成する特性と水質との関連性を調査します。

サブテーマ名「プランクトン季節遷移モデル (BPEG-model) の構築」

「プランクトン組成と物理的・化学的要因との関係の把握」

「動・植物プランクトンの相互関係の把握」・「漁網付着藻類に関する調査」

研究全体のイメージ

